

高校生はもっと学校外の勉強時間を増やし、2時間以上にしよう

－勉強は自分の可能性を広げる－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：右の表は何ですか。

A：（林明夫。以下省略）財団法人日本青少年研究所がとりまとめた「高校生の学校外における平日の勉強時間」です。単位は%です。

日本、米国、中国の高校生の平日の勉強時間の2002年の状況と、1980年(22年前)の日本の状況がまとめてあります。高校部の塾生だけではなく、これから高校に進学する塾生は、この厳しい現実を直視するよう希望します。

この表から、日本の高校生は学校以外では勉強をほとんどしないが半数以上、しても1時間

半くらいまでが28%で、2時間以上する高校生は20.4%しかいないことが分かります。一方、中国では、ほとんどしないが4.1%、1時間半までが18.5%、2時間以上が75%と、日本と全く逆であることが分かります。日本の高校生は、中国の高校生と比べていかに勉強していないかが分かります。

高校生の学校外における勉強時間(平日)%

| | 日本 | | 米国 | 中国 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| | 1980年 | 2002年 | 2002年 | 2002年 |
| ほとんどしない | 26.3 | 51.4 | 26.9 | 4.1 |
| 30分ぐらい | 8.2 | 9.4 | 23.0 | 2.9 |
| 1時間ぐらい | 10.5 | 10.6 | 17.2 | 6.5 |
| 1時間半ぐらい | 7.5 | 8.0 | 11.0 | 9.1 |
| 2時間ぐらい | 10.8 | 7.0 | 10.7 | 18.8 |
| 2時間半ぐらい | 6.4 | 4.6 | 3.9 | 14.1 |
| 3時間ぐらい | 11.3 | 4.4 | 2.3 | 16.3 |
| 3時間半ぐらい | 6.0 | 2.0 | 1.7 | 13.8 |
| 4時間以上 | 12.3 | 2.4 | 2.2 | 12.0 |
| 無回答 | 0 | 0.2 | 1.0 | 0.4 |

出所(財)日本青少年研究所

「高校生未来意識に関する調査」

Q：塾長は何を訴えたいのですか。

A：日本の高校生にはもっと勉強に時間をかけてもらいたいということです。なぜなら、日本の高校生は、高校を卒業後、大学を初めとする上の学校（高等教育機関）にその74%が進学するのが現状です。高校を卒業後、上の学校へ進学してより高いレベルの勉強をする人が74%もいるのに、学校外での勉強時間が全く無しが半数で、1時間半くらいまでが28%では大変なことになるからです。

Q：何がどう大変なのですか。

A：高校で学習する内容の大部分は中学でのそれよりも難しいですので、学校の授業で「うん、なるほど」と「理解」した内容をしっかりと「定着」させるためには、最低でも2時間以上の学校外での勉強が必要になるからです。高校で学ぶ内容がしっかり身に付いていないまま大学などの上級学校へ進学すると、「学力不足」のために授業や研究に全くついていけないことになります。

また、大学の勉強は高校よりも更に難しく、自己学習がとても大切です。高校生の時にほとんど勉強しなかった人が大学生になって急に勉強時間を増やせるかといえば、なかなか大変です。

Q：どうしたらいいのですか。

A：現高校生は心を入れかえて中国の高校生を見習い、勉強時間を大幅に増やすことです。また、現在小・中学生の塾生は高校生になっても今やっているように1日最低2時間以上は勉強するぞと心に決めることです。勉強時間を増やし、学力を身に付ければ付けるほど、いろいろな高校や大学に合格出来る可能性が高まります。人生における「可能性」つまり「選択の幅」が広がります。

ところで、中国の高校生の51.3%が大学院で勉強したい（大学院修士までは32.3%、大学院博士までは28.0%）と考えています。開倫塾の塾生の皆さんも志を高く持って大いに勉強し、大学院まで目指すことを、塾長として希望します。

Q：最後に一言どうぞ。

A：学校外での学習時間が減る三大原因は、TVをダラダラ見ることとゲームやケータイにのめり込むことです。小学生から大学生まで、TV・ゲーム・ケータイは合計して1日最高でも2時間までにすることを提案します。頑張ってください。